

「線区活用に関する検討会」における2021年度の取り組みについて

2019年度より、ご利用状況が大きく減少した線区を対象に、県や沿線自治体、九州運輸局と当社による協働の取り組みとして「線区活用に関する検討会」を開催しております。

検討会では、鉄道の持続可能性を高めていくことを目的に、沿線自治体の皆さまと当社が一緒になって、線区の現状を相互理解し、線区活用策に取り組んでおります。

今回、線区の持続可能性を高めるには日常的に鉄道をご利用される方を増やすことが大事であるということをご共有認識としたうえで、各線区の取り組みを沿線にお住まいの方々に広く知っていただきたいと考え、本検討会における2021年度の取り組み状況等を公表させていただくことといたしました。

今後も本検討会の取り組みなどを通じて、地域の皆さまと持続可能な交通ネットワークの提供に努めてまいりますので、より一層のご利用をよろしくお願いいたします。

○ 2021年度の開催線区およびこれまでの開催実績

【対象線区】

- ◇筑肥線(伊万里-唐津)
- ◇吉都線(吉松-都城)
- ◇指宿枕崎線(指宿-枕崎)
- ◇日南線(油津-志布志)

【上記4線区のこれまでの検討会開催実績】

- ・2019年度:2回、2020年度:3回、2021年度:4回、2022年度:1回
- ※2022年10月24日時点

○ 各線区における取り組み内容

- ◇別紙参照

「筑肥線(唐津～伊万里)活用に関する検討会」 における2021年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

筑肥線(唐津～伊万里)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くのお客さまに選ばれる交通手段とすることを目的として、2021年度は「筑肥線活用に関する検討会」を計4回開催しました。

検討会では、線区のご利用実態に関する情報共有や、ご利用者を増やすための線区の活用策の検討および実施に向けた協議などに取り組み、それらを踏まえ各主体で活用策を実施した結果、多くの方にご参加等頂きました。

2. 出席者

唐津市、伊万里市、佐賀県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 実施した主な線区活用策

イルミネーション列車の運行

イルミネーション列車を企画・運行し、それに合わせて地域団体等が行うおもてなし等の取組を支援することにより、鉄道の利用機会の創出と更なる利用促進を図った



- ・2日間にわたり8本のイルミネーション列車を運行
- ・JR利用者515名

鉄道を使った地域づくりセミナーの開催

沿線自治体や関係団体を対象としたセミナーを開催し、他線区での利用促進策の紹介等を行うことで、鉄道の利活用促進に向けた機運醸成を図った



- ・参加者66名(うちJR利用者 約20名)

全体

この他にも、以下の取り組みなど11件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約2,800名(うちJR利用者 約550名)でした。

- ・公共交通機関を利用した通勤・通学の推進
- ・通学利用を促進するための広報活動
- ・大川野駅舎内での筑肥線鉄道資料の展示
- ・鉄道利用促進PR動画の制作
- ・沿線事業所に対する鉄道利用状況調査
- ・「肥前やきもの圏」PR列車の運行

4. 2022 年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しております。引き続き、筑肥線の更なる活性化にご協力をお願い致します。

- ・「ロマンシング佐賀」でラッピングされたロマ佐賀列車の運行、お得な周遊きっぷの発売や駅を拠点とした周遊イベント等
- ・伊万里駅ビル開業 20 周年記念切符の発売
- ・唐津駅の観光案内機能の拡充およびライトアップ
- ・行事で鉄道を利用する保育所等への運賃補助



The poster for "Romancing Sagami 2022" features a yellow and blue train with a colorful floral livery. The text includes "Romancing 佐賀" and "お得な「ロマ佐賀列車周遊きっぷ」発売中!". It lists the lines: 長崎本線 (長崎～大津浦), 唐津線 (大津浦～唐津), and 筑肥線 (大津浦～杵築). Pricing is shown as 大人 1,250円 / 子ども 500円 for the start period (10月31日) and 大人 2,500円 / 子ども 1,250円 for the full period (11月1日). A QR code is provided for more information.

「ロマンシング佐賀 2022」の詳細は、
QRコードからご確認いただけます。



「吉都線活用に関する検討会」における2021年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

吉都線を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くのお客さまに選ばれる交通手段になることを目的として、2021年度は「吉都線活用に関する検討会」を計4回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有や意見交換などを行いました。

また、ご利用状況を改善するため、JR吉都線利用促進協議会や沿線自治体等において様々な線区活用策が実施され、多くの方にご参加等頂きました。

2. 出席者

都城市、高原町、小林市、えびの市、湧水町、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 主な線区活用策（JR吉都線利用促進協議会及び沿線自治体等による取り組み）

イベント列車の実施

季節や構成市町の行事等に合わせたイベント列車を企画

・参加者30名（うち、JR利用者37名 ※添乗員等を含む）



小中学校利用促進助成

沿線自治体等の小中学生等の団体が吉都線を利用する際に、乗車運賃の実費全額を助成

・参加者257名（うち、JR利用者262名 ※添乗員等を含む）

普通列車チャーター助成

普通列車をチャーターして吉都線を利用する団体等に対し、チャーター費用の一部を助成

・参加者127名（うち、JR利用者127名）

全体

この他にも「鉄先案内人の養成」や「電子ガイドブックの作成」など7件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約480名（うちJR利用者約490名 ※添乗員等を含む）でした。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、その他4事業（観光列車誘致事業、車両基地見学ツアー等）で開催見合せ

4. 2022 年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しております。引き続き、吉都線の更なる活性化にご協力をお願い致します。

- ・沿線ガイドマニュアルの作成や「鉄先案内人」の養成
- ・季節や構成市町の行事等に合わせたイベント列車の運行
- ・小中学校や幼稚園、老人クラブ等の活動を対象とした吉都線団体利用への支援
- ・吉都線を活用したツアーへの支援

「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」 における2021年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

指宿枕崎線(指宿～枕崎)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くのお客さまに選ばれる交通手段になることを目的として、2021年度は「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」を計4回開催しました。

検討会では、線区のご利用実態に関する情報共有や、ご利用者を増やすための線区の活用策の検討および実施に向けた協議などに取り組み、それらを踏まえ各主体にて活用策を実施した結果、多くの方にご参加等頂きました。

2. 出席者

指宿市、南九州市、枕崎市、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 実施した線区活用策

JR 指宿枕崎線利用促進事業①

社会見学を行う団体への運賃の一部助成や小中学校の校外学習における運賃全額補助、各種啓発活動を実施



- ・教育委員会等や小中学校の個別訪問により事業を説明し活用を促進
- ・参加者 203 名(うち、JR 利用者 203 名)

JR 指宿枕崎線利用促進事業②

利用促進キャンペーン(謎解きイベント、車窓フォトコンテスト、駅前マルシェ等)の実施や沿線おすすめスポット等の情報発信を行った
・参加者 2,807 名

南薩マルシェ in 西穎娃駅

西穎娃駅にて食品や野菜の即売会(マルシェ)を実施
・来場者数 150 名(うち、JR 利用者 2 名)

いぶすき商店街駅弁まつり

指宿駅前前で地元の飲食店が結束して「駅弁祭り」を開催し、利用促進を図った
・来場者数 782 名(うち、JR 利用者 79 名)

イベントへの出店

博多駅前広場で指宿市・霧島市との共催イベントを開催(観光紹介・物産販売)
・パンフレット配布数 500 部

全体

この他にも「JR 山川駅の活用」や「電子ガイドブックの作成」など 5 件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約 4,400 名(うち JR 利用者 約 350 名)でした。

※新型コロナ感染拡大防止のため、その他4事業(車窓写真コンテスト、団体列車の運行等)では開催を見合せ

4. 2022 年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しております。引き続き、指宿枕崎線の更なる活性化にご協力をお願い致します。

- ・指宿駅前における「いぶすきバル」の開催
- ・西穎娃駅の駅舎等を活用したイベント等の開催
- ・未就学児や児童生徒、高齢者の団体利用への支援及びその広報(JR 指宿枕崎線利用促進事業)
- ・イベント開催や企画乗車券造成への支援など(地域鉄道活性化支援事業)

「日南線活用に関する検討会」における2021年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

日南線を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くのお客さまに選ばれる交通手段になることを目的として、2021年度は「日南線活用に関する検討会」を計4回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有や意見交換などを行いました。

また、ご利用状況を改善するため、JR日南線利用促進連絡協議会や沿線自治体等において様々な線区活用策が実施され、多くの方にご参加等頂きました。

2. 出席者

宮崎市、日南市、串間市、志布志市、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 主な線区活用策（JR日南線利用促進連絡協議会及び沿線自治体等による取り組み）

日南線フォトコンテスト

日南線の車窓をテーマに、Instagramを活用して開催

【グランプリ作品】



【準グランプリ作品】



- ・参加者 23名(JR利用者 23名)
- ・応募総数約 80件

JR日南線利用促進イベント公募

JRを活用したイベント(JAZZトレインや子育て応援列車、高校生と行く小学生ふれあい旅など)を実施する串間市内の団体に対して、費用の一部を補助

【高校生と行く小学生ふれあい旅】



・参加者 95名(JR利用者 95名)

沿線ガイドマップの作成

鹿児島県内在来線7線区の観光モデルコースを集約した電子ブックを作成
・2021年度末に配信開始

アミュプラザみやぎとの連携お買い物きっぷ

宮崎までの往復乗車券とアミュプラザみやぎのショッピングチケット引換券がセットになった割引きっぷを発売

- ・販売実績 48 枚(JR 利用者 48 名)
- ・コロナ拡大期間は発売を停止

観光列車平日臨時運行支援

観光列車「海幸山幸」の平日貸切を行う場合の費用の一部を補助

- ・参加者 209 名(うち、旅行者 1 件、団体利用 3 件 ※JR 利用者 209 名)

全体

この他にも「駅カードの制作」や「ご当地駅弁の開発」など 9 件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約 1,130 名(うち JR 利用者 約 740 名)でした。

※新型コロナ感染拡大防止のため、その他6事業(つながるマルシェ、団体列車の運行等)で開催見合せ

4. 2022 年度に実施予定の主な線区活用策

今年度は以下の活用策の実施を予定しております。引き続き、日南線の更なる活性化にご協力をお願い致します。

- ・日南線を活用し職業観を育む事業の推進・支援
- ・福島高校と連携した利用促進イベントの企画や実証
- ・小中学校や幼稚園、老人クラブ等の活動を対象とした日南線団体利用への支援
- ・日南線を活用したツアーへの支援